

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 ニュースレター

《編集・発行》

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 広報部 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp URL: http://www.elv.or.jp/

巻頭言

去る17日、総務省が2011年10月1日時点での、人口推計を発表した。総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が、前年比0.3ポイント増の23.3%で過去最高を更新したもよう。たしかにまわりを見れば高齢者向けの商売が花盛りである。ところが、私の勉強不足だと思うが私たちの商売に一番身近な自動車は、とにかく燃費、エネルギーと動力源の開発ばかりが目につく。これだけ高齢者が増え、高齢者の事故も増え続けているのだから、安全に安心して運転できる 高齢者用の自動車があっても良いのではないかと。技術開発もそれこそ大変だとは思いますがスタイルより燃費より、多少高齢で五体が満足でなくなっても、安全で安心して運転できる車ができると嬉しいと思う。そうすれば私もこれから先高齢になっても、ずっと車を運転できる楽しみが沸いてくる。ちなみに、私の住む福島県の人口は1.93%減で、都道府県別として、過去最高の減少率だそうだ。◇

田村 幸男(福島県自動車リサイクル協同組合 理事長)

もくじ

巻頭言	1
自動車リサイクル室長メッセージ	1
特別インタビュー(自再協)	1
小型電子機器の再資源化	2
《投稿欄》	2
ELV機構全国地域講習会	2
スクラップ市場 最新情報	3



《特別メッセージ》 本誌では経済産業省 小野自動車リサイクル室長よりにメッセージを頂戴しました

経済産業省 自動車課 自動車リサイクル室
室長 小野 正

本年2月に自動車リサイクル室長を拝命しました小野正です。

我が国は、人口減少や超高齢化の進展等により、今後、新車需要が大きく伸びることは難しくなりました。経済産業省では、国内産業維持と雇用確保の観点から立地補助金の創設、車体課税における税率の一部廃止・軽減、エコカー減税の継続・拡充、エコカー補助金の創設など、国内自動車市場の活性化に向けて取り組んでいるところです。

さて、昨年は、自動車リサイクル業界にとって、東日本大震災の発生等の影響等により、ELV発生台数が300万台割れと前年から大幅な減少、鉄スクラップ市況の下落基調など、経営環境が大きく変化しました。就任以降、未だ数社ほどですが、解体業の現場を拝見し、最近の経営環境等についてお話を伺いました。企業にとって、安定成長を継続していく上で厳しい経営環境の中で、利益率をいかに確保するか、市場環境に左右されない自立的なビジネスモデルの構築など、経営力が問われる時代であると感じました。

こういう時こそ、経営者がリーダーシップを発揮し、確固とした将来ビジョンを掲げ、社員一体となった組織力の発揮が求められていると思われまます。また、企業単位での取り組みだけでなく企業間連携というアプローチも重要であると思います。各社が保有する経営資源の融合等により企業間や地域組合活動との共同経済事業などを通じ、生産性の向上、経営合理化を図るなど、価値実現力を高め更なる発展に繋げていくことが可能であると確信しています。ELV機構におかれては、業界の健全な発展のため、会員企業の現場での悩みや課題等を集約し、多面的な視点からの支援等を構築することも必要です。会員の皆様も業界活動に積極的に関わるといった姿勢が求められると思います。

経済産業省としても、中長期的な展望を見据えたりサイクル事業の高度化やリユース部品の需要喚起に向けた検討など、関係省庁と連携しつつより良いスキームづくりを目指します。解体業界が果たすべき意義と役割は、循環型社会を支える担い手として引き続き不可欠なものであることは言うまでもありません。今後とも可能な限り現場を訪問し、皆様との対話を通じ一緒に取り組んでいきたいと思ひます。◇

2012年4月

《特別インタビュー》

～自再協 業務部 柴田マネージャーに聞きました～

◆エアバッグ類の車上作動処理に関する最新の状況は—

jaera講習会の資料にも盛り込んで頂きましたが、エアバッグ類の処理忘れ等不適切な処理の問題は依然として無視できない規模で発生しています。例えば、昨年度(2011年度)の監査結果では、725事業所に対する監査で20%が措置対象となりました。その内21事業所には「登録取消」「一時停止」など、厳しい措置が取られ、その他については、厳重な注意や指導が行われました。

◆措置対象となる主な事由は?—

- 主として、次の3件が重要な措置対象になると考えます
- エアバッグ類未処理のまま車両を破砕業者に引き渡す行為
- エアバッグ類未処理のままハーフカット輸出を行う行為
- 自動車メーカー等に引き渡す以外の目的で、未処理エアバッグ類を保管する行為

◆処理忘れ等の不適正処理に繋がる理由を聞かせて下さい—

まず、第一に作業前の装備確認が不十分だということです。特に、シートベルトプリテンショナーの処理忘れが顕著です。自動車リサイクルシステムでメーカーが提供する「車台詳細情報」を活用した確認をお願いします。また、事業所内での担当の変更時等で作業手順の十分な引き継ぎがなされていないのではないかと懸念するようなこと、あるいは、社外の人(バイヤーさん)がエアバッグ類を取り外したり、エアバッグ類処理前の車両を持ち出しているといったこともあるのではないかと思います。

◆今後の対策を如何お考えですか—

現在実施しています「無通知監査」を更に強化し、外部委託監査人による監査も無通知で行うほか、場合によっては、国や自治体の担当者も同行して無通知で監査にお伺いすることもあります。これは決して措置件数を増やす目的ではなく、解体業の皆様のご協力とご理解により適正処理の普及を図ることであるとご理解ください。

(P2 下段へ)

使用済小型電子機器等の再資源化促進に関する法律の作成について ～環境省～

去る3月9日、使用済み機器の再資源化に関する新たな法律案が閣議決定されました。法律の名称は「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」で、その背景には、①新興国の需要増大に伴う資源価格高騰 ②資源供給の偏在性と寡占性等の資源制約の観点と、③最終処分場の逼迫、④適正な環境管理等、環境制約の観点からがあると説明されています。即ち、使用済小型電子機器等に含まれるアルミ、貴金属、レアメタル等がリサイクル(再資源化)されずに埋め立てられていることへの対応が急がれることが、法律の背景だと理解できます。

いわゆる、都市鉱山(アーバンマイン)の有効活用であり、国の公表した資料によると、市町村等が回収した使用済小型電子機器などについて、これを引き取って確実にリサイクルを行うことを約束した者を国が認定し、廃棄物処理法の特例措置を講じる制度とされています。

現在、閣議決定された基本方針を定める法律施行の詳細等については、更なる議論が行われ、細目が政省令等により決定して行くものと思われま。我々業界にとっては、今回の法律が使用済自動車

のリサイクルに如何に適用されるかという関心がありますが、今後政令指定される対象品目の候補96品目中に含まれる使用済自動車関連機器は次の11品目です。

- | | |
|------------|----------------|
| ①ETC車載ユニット | ⑦カーナビゲーションシステム |
| ②VICSユニット | ⑧カーラジオ |
| ③カーDVD | ⑨カーステレオ |
| ④カーMD | ⑩カーCDプレイヤー |
| ⑤カーチューナー | ⑪カースピーカー |
| ⑥カーカラーテレビ | |

なお、本件に関する環境省の発表がwebサイトに掲載されていますのでご参照ください。◇

【報道発表資料】<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=14945>

【法律の要綱】http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=19388&hou_id=14945

【法律の本文・理由】http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=19389&hou_id=14945

《投稿欄》

雑誌に寄稿されていた評論家 立花 隆氏の文章に大変興味をそそられた。内容はJAXA(宇宙航空研究開発機構)が飛ばしている「ひので」という太陽観測衛星で、打ち上げられてから5年間飛び続けているという。じつは、その間にもたらされた観測結果は即時世界中に公開されるため、それを利用する科学者、研究機関は多く、5年間で22カ国から520編の論文を生み出した。「ひので」のおかげで、世界中の教科書が書き直されたとささげられている。

何が、その成果の理由であろう。立花氏は、「ひので」に搭載されている3基の望遠鏡とそれを支える架台の技術を上げている。望遠鏡についていえば、世界最高レベルの超高度解像能力と磁場を見せる能力だと書かれている。筆者には余り理解できないが、どうも画期的なことようだ。つぎに望遠鏡の架台であるが、太陽熱に負けず、熱膨張がほとんどゼロの炭素繊維複合材料で作られた架台は1ミクロンの狂いもなく、鮮明な画像を提供してくれる。我々日本人には誇らしい技術の裏付けで実現した観測であるが、立花氏の注目を引いた観測結果とはどういうものであったのだろうか。

一つは、太陽の黒点に関してである。様々な観測、研究により、黒点が太陽活動の指標であるということが明らかになったが、その黒点に現在大変な異常が発生していることが一連の観測で明らかになっ

た。08~09年にかけて黒点がほとんど見当たらない時代が続いた。黒点観測は400年も前から続いているが、11年周期で増減する黒点が、ここにきて12.6年に延びてしまった。1800年ごろの小規模氷河期(ダルトン極小期)以来なかったことで、もし、更に周期が伸びて13~14年になると、400年前のマウンダー極小期(テムズ川が凍結した)の再来となりかねないという。現在、最大の地球環境問題は『地球温暖化』であるが、太陽の異常から判断すると『地球寒冷化』が危機だという考えもあるという。

更に異常なのは太陽の磁極反転に狂いが生じているという。従来11年周期で磁極が反転していたものが、北極と南極とで反転のタイミングがズレ始めたという。太陽の基本構造に何らかの異常が生じていることは事実のようである。このところ黒点が再び現れ、太陽の活動は回復しつつあるというが活性度のレベルは依然低いという。

太陽観測を中心的に担っている日米欧の観測機関が、近くこの異常を報告するとも言われている。

空想宇宙科学小説のような規模の話であり、何となく現実味が無いというのが筆者の感想ではあるが、何れも科学的に確認されたことであろうから、その道の専門家の皆さんにはしっかりと頑張って頂くようお願いしたい。◇

<出所:立花隆氏「太陽の謎」文芸春秋 2012年5月号> (TI)

(特別インタビュー つづき)

◆他にエアバッグ類の処理に関する留意点等がありますか?—

昨年6月にご通知いたしました、震災による被災車両については、引き取り基準を一部緩和して未作動「モジュール」の状態での引き渡しが可能となっています。また、昨年11月にご通知した件ですが、震災や台風などにより冠水した車両については、車上作動処理時の事故を防止する観点から、是非とも取り外し回収処理をお願いしたいと思います。なお、これまで、折に触れてご通知させて頂いた内容は、自再協のwebサイト(<http://www.jarp.org/>)の以下URLにて掲載しておりますので、是非ご活用ください。

<http://www.jarp.org/pdfs/information/110613final.pdf>

<http://www.jarp.org/pdfs/information/201111181.pdf>

<http://www.jarp.org/pdfs/information/20120406.pdf>

【連絡問い合わせ先】

◇自動車リサイクル全般 (コンタクトセンター)

☎ 050-3786-7755

◇自動車リサイクルシステムへの登録(事業者情報登録センター)

☎ 050-3786-8822

◇フロン類・エアバッグ類の実務(自再協)

☎ 03-5405-6155

日本ELVリサイクル機構 平成23年度全国地域団体講習会 開催される

今や、ELV機構加盟地域団体の年中行事となった「全国地域団体講習会」が本年も実施されています。昨年の東日本大震災の影響もあって、若干遅れ気味で、年度を越えての開催となった地域もありますが、それぞれ順調な講習会が開催されています。

ここでは、既に開催され、ELV機構事務局に開催報告書が提出された地域の開催状況をご報告します。事前準備から開催当日、更には事後処理まで、大変なご努力を頂いた全国地域団体の皆さま方には、この場所をお借りしてお礼申し上げます。



岡山・広島・山口
各県合同講習会にて

4月第3週(20日)の鉄スクラップ動向

**電炉生産伸びず鉄スクラップ相場下落
東京製鉄が20日4月5回目の値下げ**

東京製鉄が20日、4月に入り5回目の鉄スクラップ購入価格の値下げを発表すると、全国的に製鋼各社の値下げ改定が広がった。高炉筋が減産となっていることに加えて、電炉筋の生産が伸びていないことが相場下落の主な要因となっている。

例年、ゴールデンウィーク中の安い電力料金の中で電炉筋の生産水準が高まるが、「今年は夜間のみの生産となりそうだ」(関東の電炉筋)といった対応も出ており、引き合いが強まらない。電炉鋼生産は、3月が前月比6.8%増、前年同月比12.4%増の228万3千トと、前年同月比で2桁の伸びとなり、さらに1～3月の累計は前年同期比6.4%増の642万5千トと、生産水準は回復したが、丸棒などの出荷が伸びず、製品在庫が増加している。「作り過ぎた」(関係者)といった指摘も出ている状況だ。他方、電力料金などのコストアップ分を製品価格に転嫁したい考えから、電炉筋は製品販価の値上げに注力している。このため電炉筋は、需要見合いの生産に徹する姿勢で、その結果、4月以降にかけては減産となる動きだ。

関東地区 500～1,000円値下げ広がる 電炉各社の入荷好調で

東京製鉄宇都宮工場の購入価格は20日、今月5回目の値下げとなった。このため、関東地区メーカーも1トあたり500～1,000円の値

下げを実施。下げ環境の中、市中業者が出荷を急いでいることから、電炉筋の入荷が好転。荷受制限や荷止も相次いでいる状況で、荷余り感が強い。関東地区のH2炉前実勢価格は30,500～31,500円中心、高値32,000円見当。現在のH2浜値は30,500～31,000円中心。

東海地区 名古屋メーカーは連休前に在庫積み上がり なお下値寄りも

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、4月中旬にかけ2週連続で値下がりし、18日までの下げ幅は500円刻みで3回、計1,500円方となった。

地区電炉メーカーは19日までに3回で1,500円方の価格改定が一巡している。さらに20日までには一部先行安値筋が通算4回計2,000円幅の下げを実施した。東海地区のH2炉前実勢価格は29,000～30,000円中心。

関西地区 関西・大阪電炉の大勢は様子見、姫路電炉は20日追加下げ

20日の大阪地区の動きは、合同製鐵が全品種500円、住金スチールがダライ粉を除き500円下げの2社にとどまり、これまでのような一斉の値下げにはならなかった。同地区電炉のH2実勢値は32,000～33,000円見当。

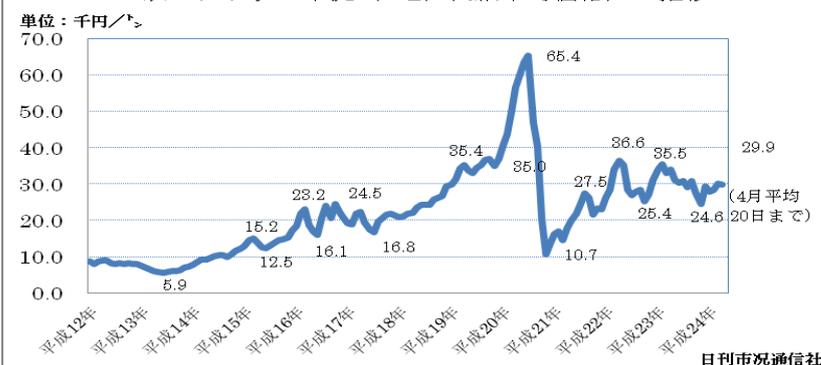
姫路電炉は20日から鉄スクラップ価格の追加下げに動き、2月下旬の安値に戻った。同地区のH2炉前実勢価格は31,500～32,000円。◇

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、4月20日時点のもの)

4月20日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	30,500 ~ 31,500	様子見
	南関東	30,500 ~ 31,500	様子見
名古屋		29,000 ~ 30,000	様子見
関西	大阪	32,000 ~ 33,000	強含み
	姫路	31,500 ~ 32,000	様子見

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



(～P2: 全国講習会より続く)

1. 福島県自動車リサイクル協同組合

代表者: 田村幸男様 (理事長)

開催日: 3月13日(火)

場所: ユラックス熱海会議室(郡山市熱海町)

受講者: 会員 23名、会員外 7名 来賓 2名

主催者所見:

講習内容に特段の新味はないものの、受講者は日常実施している業務が正しいことを確認し、更なる注意の大切さを感じたものと思われる。インストラクターの更なる育成の重要性を感じた。

2. 山陰ELVリサイクル協議会

代表者: 西川 正克様 (理事長)

開催日: 3月14日(水)

場所: 米子コンベンションセンター(米子市末広町)

受講者: 会員 18名、来賓 6名

主催者所見

今回は鳥取県生活環境部の関係者のご出席、講演を頂くことが出来たため、より充実した講習会となった。

将来は座学中心から、見て、触れて体験できる内容への転換を図ることが必要であると感じた。

3. 岡山自動車リサイクル協同組合

岡山自動車リサイクル協同組合

VRC広島・VRC山口共同開催

代表者: 和氣 達夫様(岡山自動車リサイクル協同組合理事長)

開催日: 3月16日(金)

場所: イベントホールみのるガーデン(岡山市北区)

受講者: 会員 25名、会員外 8名、来賓 2名

主催者所見

行政からの出席もあり、受講者の評価は高かった。

4. 高知県自動車リサイクル協同組合

代表者: 鎌倉 宏様(理事長)

開催日: 3月31日(土)

場所: 安岡金属(株) (高知市仁井田)

受講者: 会員 8名、会員外 2名

主催者所見

約一か月前に県下の許可業者54社と県市に案内を送付した結果今回の参加者となった。放射線量測定に関しても、フロンと同様DVD資料があれば更に理解が増したと思う。有意義な講習会であったため、来年度は参加者の増加に努力したい。

《以上ELV機構事務局まとめ》